

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4590100279		
法人名	医療法人宮永内科クリニック		
事業所名	グループホーム自由ヶ丘		
所在地	宮崎市吉村町井出ノ中甲793番地1		
自己評価作成日	平成27年1月20日	評価結果市町村受理日	平成27年4月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaisokensaku.in/45/index.php?action=kouhouyou_detail_2010_022_kanistrue&amp;jisyosyoCd=4590100279-00&amp;PrefCd=45&amp;Version=0&amp;022">http://www.kaisokensaku.in/45/index.php?action=kouhouyou_detail_2010_022_kanistrue&amp;jisyosyoCd=4590100279-00&amp;PrefCd=45&amp;Version=0&amp;022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	平成27年2月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

これからの時間を、安心して過ごしていただけるような環境づくり、関係作り心掛けています。レクリエーション等でも、職員の押し付けになるのではなく、利用者からやりたいことや持てる力を引き出していけるように、関わっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「明るく生き生きのびのび暮らせる自由ヶ丘」を理念に掲げ、ストレスがなく、伸び伸びと暮らせるよう、利用者一人ひとりに寄り添い支援している。利用者の状況により、時には1日何回も散歩に同行するなど、細やかな支援がある。看取りマニュアルが作成され、しっかりとした体制の下に看取りを実践している。地域の交流にしっかりと取り組み、近隣の人が日常的にボランティアとして来訪し、歌のレッスン、草取り、掃除等をしたり、小・中学校の生徒が通学時に挨拶するなど、地域に溶け込んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「明るく生き生きのびのびと暮らそう自由ヶ丘」を理念に掲げ、日々サービスの提供を行っている。月1回のスタッフ会議では、全員協力の下、理念に沿ってサービスを行っているか話し合い、意識付けをしている。	利用者一人ひとりが笑顔で暮らし続けられるよう、全職員で理念の実践に取り組んでいる。管理者は、職員が日々ストレスを感じず、伸び伸びと支援できるよう、月例会議等で意見を交換し、理念の共有に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	開設時よりボランティアの訪問も続いており、利用者との信頼関係も築けている。民生委員の方の協力で、地域の文化祭に利用者の作品の出品、檜中学校の生徒より年賀絵手紙が届く等、交流の場を広げている。	自治会に加入し文化祭に作品を出展したり、近隣の人が歌唱指導、掃除、草刈り等で定期的にボランティアとして来訪しており、地域の一員としての暮らしがある。通学する生徒や散歩する住民と挨拶を交わすなどの交流もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議等を利用し、医師による講演や心肺蘇生法、AED等の講習会、認知症の家族を看取られた話等をして戴いたり、地域の方々にも声かけをして、誰でも気軽に施設を利用出来るよう取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回、必ず運営推進会議を開催し、報告、情報交換を行っている。納涼祭や防災訓練等のアドバイスもいただき、スタッフ会議でも話し合いを行い、サービス向上に活かしている。	委員から活発な意見や情報提供があり、その意見等をサービスの向上に反映している。会議開催時に防災訓練を実施したり、代表者の講話を設けたりして工夫し、有意義な会議となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センター長に運営推進会議のメンバーになっていただいている。会議の時に、現状報告に対して情報やアドバイスもいただいている。	管理者は、市担当者に適宜、情報やホームの状況を伝え、アドバイスを得ている。また、必要に応じ市の窓口に出向き、より良い関係を築くよう努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	運営規定にも身体拘束についての内容を記載しているので、スタッフへも周知はされている。どうしても目が離せない時や手が足りない時に玄関施錠をする場合もあるが、落ち着かれればすぐに開放するようにしている。	外部研修を受講し、伝達研修を行い、身体拘束のないケアを全職員で共有している。ケアを常に振り返り、確認している。1日に4、5回外出する利用者があるが、施錠せず、さりげない寄り添いで支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止の研修会に出席し、そこで学んだ事を伝達講習するようにしている。必要時、対応状況の確認や振り返り等も行うよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在のところ、実際活用されている方はおられないが、成年後見制度の研修会等があれば、できるかぎり出席し、学習するよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	料金改定などについてはその都度説明し、理解・納得もいただいている。利用料の内容について疑問点がある場合、詳細がわかるよう別紙明細書等の作成を行い、納得していただけるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年1回、2月に家族会を開催し、そこで意見や要望等を出していただいている。また、来所時やサービス担当者会議等でも気軽に意見も出せるように配慮している。運営推進会議において、家族会の報告等も行っている。	家族会を開催し、家族同士だけで話し合う場を設けている。個人ノートを作り、来訪された家族に日々の状況を知らせ、何でも言ってもらえる雰囲気作りをしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議や個人面談等において、意見、提案を聞く機会を設けている。聞くだけでなかなか解決出来ない事も多いが、できるだけ耳を傾けるよう努力している。	毎月の職員会議や個人面談で、意見や要望を聞いており、意見や提案が反映されることが多々ある。運営者が職員と個人面談する機会もあり、運営者の思いを伝えるとともに、職員の要望や意見を聞く場になっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	交付金手当の継続をすること、年1回は労をねぎらって一言メッセージを送っている。勤務が偏らないようにしたり、行事等における人員配置等、スタッフの調整は行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	すぐに必要な課題がある時は、勉強会や自己学習でスキルアップを図っている。また、本人の希望や必要と思われる研修は受けようようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	宮崎県グループホーム連絡協議会に加入している。その研修会や打ち合わせの時等を利用して、交流を図り、必要時の情報交換を行っている。研修にも全員が参加できるよう分担している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者にとって安心できる居場所づくりを心掛け、家族の協力も得て施設に馴染めるようにしている。施設での生活と家族との生活を両立しながら、本人の安心した生活を築いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族との面談の場を設け、本人の気持ち、家族の意向等を十分に考慮している。また、サービスや計画を検討し、実施出来るようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	以前に利用していたサービスの様子なども聞き、その情報を基に、施設での生活に大きな戸惑いが生じないよう関係作りに努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人や家族より希望等を聞き、個別や集団での外出の場を設けている。外出の難しい方にも玄関先などでの外気浴も取り入れている。個性や力を発揮できるように、本人の趣味や嗜好等を取り入れている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の訴えや悩みを聞いた場合は、面会時や家族の面談の場を設けている。本人の現在の状態を知ることで、家族も本人の気持ち、悩みを理解し、共有する事で、問題の解決にも結び付けるよう心掛けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人や場所に関しては、家族に協力をお願いしている。本人に前もって行きたい場所等を聞き、対応できる所はドライブや外出の時間を利用している。	定期的に知人が来訪する利用者があり、関係が継続できるよう声かけしている。散歩の折に家に立ち寄ったり、ドライブでなじみの場所に出掛けるなど、利用者の要望を支援している。礼拝に毎週通われる利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間で問題が起きた場合には、双方の意見を聞き、気分を害さないように言葉を変える等して、職員もクッション材になり、よりよい関係づくりに心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	看取りをした家族も気軽に来てもらえるように行事案内等を送付している。来所の際に近況の報告を受けたり、他の利用者と思い出話をしたり、交流を大切にしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者が何処かに行きたいとの思いや何か欲しい物があるときなど、要望に沿い、スーパーに出かけたり、気分転換も兼ねドライブなどしている。また、外泊等もし、家族で過ごす時間を大切にしている。	利用者に寄り添い、思いの把握に努めている。利用者の言葉に気を留めることに努め、本人本位の暮らしができるよう、家族の協力も得ながら支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	散歩がしたいと思われた時は、スタッフが寄り添い、自宅や施設周辺の散歩へ出かけている。また、教会や自宅へ帰りたいたいの思いにも家族と連絡を取り、可能な限り今までの暮らしを大切にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の病歴を把握し、ぼんやりされている時なども、何か異常があるかもしれない等、いつもとの違いに気づき、スタッフ間で情報の共有をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者を中心にして、ケアの内容の検討を行っている。家族には担当者会議や来所時に要望や意見を聞き、介護計画の見直しを行っている。	3か月ごとに計画作成担当者がモニタリングを行い、担当者会議で検討して、介護計画を作成・見直している。介護計画に沿ったケアの実践に努めているが、計画の目標に沿った記録等が少ない。	記録に介護計画の長期・短期目標に沿った気づきや状況を記載し、それに基づき、モニタリング、見直しをし、実践につなげる体制作りを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護プランに沿ったケアを試み、その時の様子や問題点、気づきを記録している。話し合いの必要がある場合は、早い段階でカンファレンスを行い、その結果をスタッフで共有し、ケアの改善に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	体調、身体状況に応じて、何が必要かを考え工夫している。不安な気持ち、心配事、気になっている事を訴えられた時には、その場面に応じた話し方や話の内容を考え、穏やかな気持ちに持っていけるようにしている。		

宮崎県宮崎市 グループホーム自由ヶ丘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者が作った大きな貼り絵を地域文化祭に出品し、施設での生活力を広めた。文化祭には民生委員の協力をもらい、利用者も参加できた。近所の訪問カットの美容師とも気軽に話ができるようになっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所母体のクリニックが3分の2であるが、本人・家族の希望でかかりつけ医のままの方もいる。受診が難しい利用者の歯科や皮膚科においては往診も依頼し、施設、利用者、家族共に信頼関係は築かれている。	本人や家族が希望するかかりつけ医である。通院に家族が付き添う時は、ホームの状況を文書で伝え、結果を口答で確認し、状況を把握している。定期的に往診する病院も複数あり、適切な医療を受ける体制がある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	認知症を有するが上に、症状を訴えられない利用者も多い。出勤時の様子や記録での注意点を把握し、ケアに当たるよう努めているが、判断の難しい服薬、処置方法では必ず、看護師や主治医との連携を取っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、看介護サマリーの提供及び病棟看護師、地域連携室の方々と連絡を取るよう努めている。また、家族とも状況や希望の確認等も行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所段階から、重度化した場合や終末期のありかたについて意向確認書を家族に書いてもらい、担当者会議のうちに、内容の変更はないか確認を行っている。また、主治医や家族には、定期的に利用者に普段の様子や変化などを情報提供している。	昨年、数回の勉強会やかかりつけ医との連携で、看取りを実施している。本人や家族に利用開始時に重度化や看取りについて説明・意向確認書を徴収し、随時、担当者会議の折に再確認を行っている。看取り体制マニュアルをホーム独自に作成し、それに基づき実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時に関わったスタッフから情報を聴いて話し合いを行い、対応方法を学んでいる。急変時対応のマニュアル化と、研修会にも積極的に出席して、習得した事は共有し、誰でも慌てずに対応できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災訓練はスタッフ全員協力の下行い、意見を話し合っている。運営推進会議を利用し、地域との情報交換、地域消防団にも協力を仰いでいる。災害物品は常に持ち出せる位置に用意し、点検も行っている。	種々の災害、また、時間を想定した訓練を実施している。運営推進会議時に実施し、委員の協力体制を得、地域の消防団の協力も得られている。実際の避難場所まで行き、備蓄を用意して、考えられる種々の取組を積極的に実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者が大切にしている物はスタッフ間でも把握し、同じように大切にしている。また、居室で過ごしたい時はドアを閉めたり、一人の空間作りも大切にしている。	一人ひとりの状況を把握して、人格を尊重した言葉かけを行っている。プライバシーを損ねないように、居室やトイレの開閉時には必ずノックするよう気を付けたり、利用を確認する札を吊すなどの工夫をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	レクリエーションを準備した中から、したい物を選んでいただいている。新聞を見てテレビ番組を決めたり、言葉のキャッチボールができるように、職員が決めた言い方にならないように、言葉を投げかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	スケジュールに沿って生活を送れるよう支援しているが、個人の体調や状態に応じ食事時間をずらしたり、レクリエーションの参加などを行っている。また、能力、趣味に合った活動を計画し、実施できるようにしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節ごとの衣替えは家族やスタッフが行い、着たい服や柄は選べるようにしている。外出時などには、お気に入りの服を選んだりして楽しめるようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	キムチなど辛い物が苦手な方はキムチ抜きにするなど、それぞれが同じメニューでも食べられるように工夫している。すし作りを一緒にしたり、下膳、食器洗い、テーブル拭きなど利用者に来る事は任せている。	食材の買い出しに利用者も一緒に行き、畑で穫れた野菜も利用して、下ごしらえや食器洗いを利用者と一緒に行い、家庭的雰囲気で食事を楽しめるよう努めている。利用者が腕をふるいお寿司を作ったり、ホットケーキを焼いたり食の楽しみも実施している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の摂取量を記録し、食事量、水分量の少ない方には食べやすい栄養のある物、飲みやすい物を出せるようにしている。嚥下機能の低下のある方には、ミキサー食やゼリー食、カロリーのあるものを提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科医より口腔ケアの方法を学び、実践している。一人で出来る方にも必要時には介助したりし、口腔内の状態も確認している。おかしいと感じたら家族へも報告し、早めの歯科受診や往診の対応をしている。		

宮崎県宮崎市 グループホーム自由ヶ丘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の行動、表情に注意し、排泄チェック表を活用し、一人ひとりの排泄パターンをつかみ、時間を見ながらトイレの誘導を心掛けている。	排せつチェック表を活用して、一人ひとりに応じたさりげない誘導で支援している。おむつ(リハビリパンツ)の利用者が多いが、昼間はパット等で誘導するなど、できるだけトイレでの排せつができるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘による食欲低下、腹部不快等出てくる為、腹部マッサージ、腹部温めを行い、腸の動きを促す。肛門周辺の刺激や野菜の摂取にも取り組み、細かくしたり、攪拌で汁物を取る等工夫し、自然排便につなげている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴したい時間や順番は利用者に合わせられるような配慮を心掛けている。また、好みの湯温やゆったり浴槽につかってリラックスしていただけるように配慮している。	一人ひとりの利用者がゆったりと入浴できるよう支援しているが、職員体制等の関係で、入浴が週3回、特に11月から4月の間は週2回のみになっている。	職員体制の見直しや工夫をすることにより、一人ひとりの生活習慣や希望に合わせた入浴支援への取組を期待したい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	傾眠の強い利用者には居室での休息を勧め、睡眠中も利用者の状態に変化はないか訪室し、確認している。衣服、寝具の調整、湯たんぽ、加湿器、エアコンも使い、快適な眠りが出来るようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的や副作用、用法、用量については、各スタッフが積極的に学び、理解している。服薬時に必ずダブルチェックを行い、飲み忘れや誤薬防止に努めている。必要時には医師、看護師に指示を仰いでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	以前より編み物を趣味としてきた利用者が、継続して出来るように支援したり、現在の能力の中で見つけた楽しみや役割が続いていけるように努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物好きな方には買い出しに同行してもらい、希望に沿って、月1~2回程度ドライブの計画もしている。外出の難しい方にも玄関先や駐車場での外気浴を行い、気分転換を図っている。また、年1回の花見は全員参加できるように、家族の協力もいただいている。	計画的に花見等を兼ねたドライブを楽しんでもらっている。外食に出掛けたり、近くの公園へ押し花のための花や葉を採取に出掛けるなど、外出支援が日常的に行われている。墓参りや礼拝等は家族の協力を得て実施している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族との外食で、小遣いから使いたいと希望のある時は本人に所持していただき、買い物に行った時は、小遣い帳を見ていただくなどしている。家族への報告にも努めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたい利用者には家族のいる時間帯を考慮し、使用できるように支援している。手紙を書くことは難しくなっているが、ハガキや年賀状は、できるところは自分でかけるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室温や湿度をみながら、空気清浄機、エアコンの調整や換気等を行い、生活しやすい環境となるよう心掛けている。季節の草花や観葉植物等も置き、和みのある空間も設けている。散歩の時に、利用者が採ってきた草花などもテーブルに飾ったりしている。	採光や換気に気遣い、窓の開閉など、こまめに気配りしている。職員が持参したり、散歩の折に見つけた季節の花が食卓に飾られ、温かな雰囲気になっている。利用者が自分の膝掛けに包まれ、テレビを観たり、うたた寝して過ごすお気に入りの場所が確保されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	こたつで編み物やパズルをしていただいたり、ときどきはテーブル席を移動して気の合う利用者と隣同士にし、食事や会話、作業が出来、ソファではテレビ等が観られるような配慮を行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族との写真やカレンダー、貼り絵等を掲示して、居心地良く過ごせるようにしている。また、好きなDVDを見たり、音楽を流したり、安心した落ち着ける空間作りを心掛けている。	利用者の使い慣れた物や好みのなじみの物を持ち込むよう助言し、くつろげる空間になるよう支援している。居室の花の水やりや仏壇の世話など、利用者と一緒にしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ベッドの高さ調整や介助バーを使い、利用者が安全に移動出来るようにしたり、使用した電気器具を定めた場所にしまう等も徹底している。また、利用者から意見をもらって、トイレ使用中の札の利用もしている。		